

2018年 春休み
ベトナム・孤児院&日本語ボランティア グループプログラム

現地受入可能日： 毎週火曜日（現地出発は月曜日）

2月27日、3月6日、13日、20日、27日

参加費用： 1週間（6泊7日） 67,000円 2週間（13泊14日） 86,000円

受入可能日に合わせて御出発ください。詳しくはお問い合わせください。



ベトナムに来たら、メコンデルタへ♪

日帰りで行けるミトーへはホーチミン市内からバスで揺られること約2時間。

到着したら大きめの船で中州にある4つの島の内のひとつへ向かいます。島はホーチミン市街とは違い、まさに田舎という感じの村。ゆったりとした生活感に溢れています。そこで小船に乗り換えてジャングルの中をゆっくりと進んでいきます。

● ベトナムはどんなところ？

長い間、フランス領インドシナとして統治されていた名残が今も、街や人々の生活の中に見受けられます。ベトナムコーヒー、フランスパン（バインミー）、ワイン、シエスタ（長い昼休み）等のその一部です。ベトナムの首都はハノイですが、経済都市としては、ホーチミン市が最大です。アメリカとの戦争（ベトナム戦争）で過酷な歴史背景を持つベトナムですが、現在は、労働人口（20歳代～40歳代）が多く、アジア諸国の中で経済発展が著しい国です。親日の国でもあり、日本企業の進出や、また日本への技術研修生や留学を希望する若者も多く、日本に対する関心が高い国です。



日本語が・・・

左の写真をみてください。「さわトソコッやか」と呪文のように、日本語で書かれたソックスです。なんのオマジナイなんだろう。もちろん、すぐに解決、そうか、「さわやかコットン」と言いたいのか！

そういえば、20年くらい前までは、日本でも良くわからない英語がロゴや広告に良く使われていました。同じような状況がいまベトナムで起こっているのか。でも、あきらかにおかしいでしょ。

だから、少しでも日本人として、日本語を勉強している人たちのヘルプをしてあげましょう。

● グループで活動するメリット

参加費用が個人プログラムよりも安くなります。グループ参加ならではの、特別企画、たとえば日本語学校の学生のみなさんたちと一緒に料理パーティなどを行います。このプログラムに参加される方は皆さん前向きな方が多く、帰国後も良い友人としてお付き合いできるような、新しい出会いがあるのもグループプログラム参加の良さでしょう。

● ボランティア活動

障害児の孤児院と日本語学校でのボランティアを同時体験するプログラムです。ボランティアは強制ではありませんが、その言葉通り、自主的に積極的に働きかけることが求められます。その気持ちと行動力があれば、現地の皆さんも快く受け入れてくれます。

● 滞在は日本語学校近くのホテルでの滞在

このプログラムに参加する方はホテル滞在になります。（食事は別です。）一部屋を2名でシェアする場合があります。日本語教室から徒歩約7分の場所にあり、周辺には地元の安価なレストラン等があり、とても便利です。

● ベトナムの孤児院で感じたこと・・・(参加者ノートからの抜粋)

言葉は通じませんが、気持ちは伝わります。近づき抱き合ったり写真を撮ったり 顔を見合わせ笑ったり 現場でないとできないすばらしく 楽しい時間を 過ごせます。初日は やはり初体験の為 かなり驚きを感じます。でも 2日目 3日目になると皆が覚えてくれて 体は健康だが 知能が少々送れている子ですが、走ってきて抱きついてくれました。動けなくても近づくと笑ってくれて喜んでくれました。 最高に幸せを感じました。

従って 時間があれば ずっと遊びたいです。一緒に折り紙をしたり 廊下でちょっとふざけたり、私たちは だいたい 1 時間半ほど孤児院に滞在し各部屋を回っていました。



孤児院の子供はその80%が障害をもっています。アメリカとの戦争の後遺症だと説明されました・・・



コーディネーターの家でパーティ 空港に迎えにきてくれた現地スタッフ すごいバイクの数

右上の写真： ホーチミン市内は車よりもバイクの方が断然多いです。すごい数のバイクが目の前をガンガン走り去って行きます。道路を横断する際は気をつけましょう。

● ベトナム、ホーチミンにて・・・(参加者ノートからの抜粋)

雑貨の買い物は本当に楽しいです。食器、洋服、小物、とにかく時間がいくらあっても足りず、女性の買い物欲のツボを押さえたお店のチョイスだと思います。ローカルの人が行くフォーのお店も美味しいし、観光客向けのレストランやホテルの中のbuffet(シエラトン)も美味しいし、何よりスイーツが私が今まで旅行した海外の中で3本指に入るくらい美味しかった！旅行に行く前は、ホーチミンに関して賛否両論の意見を聞いていましたが、買い物と食べる事が好きな私にはかなり満足の街でした。

グルメは！人気の Quan An Ngon!

Quan=食べる An=店 Ngon=おいしい 名前の通りおいしいものがなんでも食べれる！すばらしい、おしゃれなベトナム料理のお店。北から南まで縦になが〜いベトナムだから、食もそれぞれ。クアンアンゴンならベトナムの北から南までのおいしいものがなんでも、かんでも揃ってます！フォーから、生春巻き、パインセオ、から、ホイアン名物カオラウ、ダナン名物ミークアン、バーバーバー(333)ビールから、ベトナムコーヒー チェーまで。かみなぎってます。癒されてます。3キロ太っても許せます・・・。

● ベトナム・グループプログラム・スケジュール

DATE	午前	午後・夕刻
1	関西空港、成田空港等から弊社指定の便で出発。ベトナム国際空港到着後、現地スタッフが空港でお出迎えし、滞在先のホテルへと移動します。	
2	孤児院と日本語学校でのボランティア活動。具体的な内容はどんなことをすれば子供たちにとって良いか、また持続可能なサポートはどういったことができるかを考えながら活動して下さい。個人ではなく、複数で参加していただきますので、一人ではできないことができますはず。コーディネーターと話しをしながら、自由時間やオプションのツアーなどを組み立てていきます。	
12	1 週間のプログラムの方は 7 日目にホーチミンを出発します。飛行機によっては、翌日帰国となります	
14	帰途へ（出発時間は飛行機により異なります。）	
15	帰国予定 ※フライト出発時刻の関係で 14 日目に帰着する場合があります。	

ベトナムの言葉をすこし勉強しましょう。コーディネーターのオフィスで初日オリエンテーションの際にベトナム語の勉強もします。また、日本語学校の生徒さんたち（みなさん学生や社会人）が、良いサポートをしてくれます。滞在中に少しでも多くのベトナム語を覚え、現地で使って見てください。できるだけ、現地の巷の人々とかかわることが、CEC プログラムの最大の特徴です。



メモ帳と旅の指差し会話帳（ベトナム編）を携帯しましょう！

ホーチミン市内の街中のレストランやショップでは英語は通じますが、一歩路地に入った地元の食堂やお店では、なかなか英語が通じません。そんな時に、皆さんに事前にお渡しするイラスト付きのベトナム語会話帳でコミュニケーションをトライしてみてください。現地の皆さんはおしなべて親切なので何とか理解しようとしてくれます。また、メモ帳に、場所名や、ベトナム語での言い回しなどを、コーディネーターに尋ねて書いてもらっておくと、それを見ればスムーズにやり取りができます。



スーパーマーケット BIG C やその他のスーパーマーケット

ホテルには部屋に飲み物がなかったので、着いて荷物を置いた後、すぐにホテルからタクシーで5分ほどの所にある「Big C」というスーパーに行き、飲み物を調達しました。500mlのミネラルウォーターが3,300d(16円)でした。Sangさんに聞いたら「La Vie」という名前のお水がおいしいとの事でしたのでそれを買いました。パンも安くおいしいです。5,500d(27円)~8,500d(42円)くらい。あと私のおススメは惣菜コーナーに売っているグラム売りの焼そば一人前が約8,100d(40円)で美味しかったです。他にも、小さめのスーパーやコンビニなどがホテルの近く徒歩圏内にあります。



子供のつめを切ってあげたり、一緒に遊ぶ。子供たちに楽しい時間を提供するのボランティアです。

募集要項

現地受入可能日： 毎週火曜日（現地出発は月曜日）

2018年度：2月27日、3月6日、13日、20日、27日

1週間(6泊7日) または、2週間(13泊14日)

プログラム参加費用	最少催行人数は2名です。(定員6名様) 募集人数に達した時点で募集を打ち切ります。
1週間 67,000円	
2週間 86,000円	

<プログラム費用に含まれるもの>

現地到着時の、ベトナム国際空港からホテルまでの送迎

帰国時のホテルから空港までの送迎

ホテル滞在費用（2名1室）

滞在期間中の現地でのサポートに関して

ホテルから現地のコーディネーターのオフィスまで徒歩5分、日本語での会話となります。

<プログラム費用に含まれないもの>

ベトナムまでの往復航空券（CECが提携する旅行会社を紹介する事も可能です。）

食費：1日1,000円程度（場所により変わります。）

現地交通費：ホテルから施設等まではタクシーを利用します。

海外旅行傷害保険加入費用

観光費用などの個人的費用

※時として、予定していた施設が、突然不可能になることもあります。その場合には別の孤児院で活動していただくことになります。この点をご了承の上で参加申込を御願います。

<お申込方法>

参加申込フォーム（**CECのWEBから入ってください**）から必要事項を入力いただき送信ください。申込金の20,000円はフォームの送信後3日以内にCECの口座までお振り込みください。申し込みフォームと申込金の到着を以って成立とさせていただきます。

申込の際の留意事項

- パスポートの残存期間が6ヶ月+滞在日数以上あることをお確かめ下さい。無い場合はパスポートを更新ください。
- 未成年者の方は、保護者の参加同意書が必要です。お申し込み後、参加同意書フォームをお送り致します。
- WEB上でプログラム参加規約をお確かめいただき、お申込みください。

お問合せは下記までお気軽にご連絡ください。

CEC ジャパンネットワーク



CEC Japan Network

532-03 大阪市淀川区宮原 1-16-2-604

Tel 06-6397-7030 e-mail info@ceci.net

参加者感想文

この他にも参加者感想文は、次のURLよりご覧いただけます。

⇒<http://www.cecj.net/blog/report?country=ベトナム>

参加期間 2014年8月5日～8月18日

【参加されたプログラム】：ベトナム孤児院・日本語学校ボランティア

【お名前を紹介してよいですか？】：イニシャルなら可

【参加しようと思ったきっかけは？】：

もともと友達の影響で海外ボランティアに興味があり、せっかくの長い夏休み、「なにかしなきゃ！このままじゃいけない！」という気持ちからこのプログラムへの参加を決めました。

【参加期間中に楽しかったこと、思い出に残るエピソードなどなんでもお書きください。字数は無制限です。】：

【孤児院】

私はほぼ毎日孤児院に行かせてもらいました。交通手段はタクシーorバスです。タクシーは同時期に同じプログラムの参加者さんがたくさんいてくれた時におすすめです！私の場合は自分を含め5人で行っていたので安く乗ることができました。バスに乗り始めたのは帰国一週間前ぐらいからです。ホテルから孤児院付近に着くバス停まで、結構歩くので朝から少しきつい時もありましたが、友達と話しながら歩いているとなんとかなるものでした（^。^）値段的にはやっぱりバスのほうが安いです。滞在中に、お金を節約したくなったらバスのほうがいいかもしれません。私は夏の暑さと毎日のハードなスケジュールのせいか、一度だけ夜に熱が出でしまいました。朝には下がっていたので大丈夫でしたが、少しでも怠いと思ったら、無理をしないほうがいいことも今後参加される方にオススメしたいです！

私は今まで障害をもった子たちと関わる機会がなかったので、初日はどう接したらいいのかな...という不安もありながら孤児院に向かいましたが、いざ子供たちの中に入ってみればそんな気持ちは吹っ飛びました！それは孤児院の子供たちのおかげです。小さい子供たちの部屋では、私の顔を覚えてくれていたのかは分かりませんが、私を見つけるといつも腕を伸ばして、抱っこを要求してくる子がいました。膝の上に座りにくる子もいました。本当に可愛らしく、とても癒されました。言葉が通じないなんて全然問題ないです！実際、私はずっと日本語で話しかけていました（^^；）表情や動作で分かり合える部分があると思います♪

障害をもった子供たちの部屋では、部屋に入るなり、まさかのハグで迎えてくれたり（笑）一緒にデジカメでインカメラのように写真を撮ってみたり、子供たちから積極的に関わろうとしてくれます。なかには誰かの介助なしでは動けない子もいましたが、基本的にみんな元気いっぱいです！食事の介助は、ひとりひとり食べ方に癖（例：どどんご飯を口に入れてほしい子・食べ終わるまで待ってほしい子・ご飯とスープを交互に食べたい子・ミルクがないと怒り出してしまう子...など）があるようなので、毎日通ううちに少しでも覚えてあげられるといのかなと思います。

親が居なかったり、障害をもっていたり、それぞれの子たちが抱えていることは重たくも感じました。でも、それ以上に元気いっぱいの子供たちの姿が私は印象に残っています。“この子供たちにこうして、ずっとずっと笑っていてほしい”と心から願っています。

孤児院で、ウェットティッシュは必須アイテムです！私も体験者の方のレポートで知って、持っていきましたが、本当に役立ちました。孤児院以外でも色んなところで使えました。これはもしかしたら、私だけ(?) かもしれませんが...虫よけシートを持っていただければ使用することをオススメします！私は持っていたにも関わらず、つけわすれていることが多々あったため、よく蚊に刺されました...。その度に、日本からもってきた強力なムヒで痒みを抑えました(^^;))

【日本語学校：わかば】

わかばも毎日行かせてもらいました。まず、生徒さんといっても小学生から大学生、家庭をもった社会人のかたなど色んな方がいます。皆さん共通していたのは、学校・仕事終わりだとは思えないほどの集中力と日本語を勉強する姿勢のすごさです！おもしろ、私もこれくらいの勢いで英語を勉強しなきゃな...と反省をしました。

日本のことにもすごく興味を持ってきていて、色んなことを質問してくれました。なかなか通じないときは、電子辞書に入っている写真を使いました。スマホは機内モードでネットが繋がらなくなっているので、電子辞書はとても役に立ちました。楽しかったことといえば、同い年の生徒さんとスマホのカメラロールに入っている写真を見せ合ったことです。お互いの家族やペット、旅行の写真を見ていると自然と盛り上がります(^^) その生徒さんはその後もすごく仲良くしてくださいました。他にも、同世代の生徒さんたちと、コーヒー一杯で2時間ほど恋愛トークで盛り上がったなんてこともありました！ここがベトナムだということを忘れてしまいそうなほど、盛り上がったように思います。授業後は毎日生徒さんがご飯に誘ってくださったので、沢山のベトナム料理を食べることが出来ました。ベトナム風お好み焼きバインセオはぜひぜひ今後行かれる方に食べてほしい一品です♪

休日にも関わらず、わざわざ私たち日本人のために市場を案内してくれたり、ご飯の帰りは毎回ホテルまで送ってくれたり...本当に本当に優しくて温かい方たちでした。帰国する日は、もうこんなに良くしてくれた生徒のみなさんやアン先生とお別れだと思うと、なんだか色んな思いがこみ上げてきて涙が出てきました...。感謝の気持ちでいっぱいです！

Facebookのアカウントを作ってから行くことを私もオススメします！ベトナムで生徒さんと連絡をとる手段にもなりますし、日本に帰国してからも色んなメッセージを送りあっています。わかばの生徒さんが日本に来たときは、Facebookを通じて教えてくれるそうです(^^) 楽しみです♪

【その他】

休日はわかばも孤児院もお休みなので、ぜひぜひ観光に行くことをおすすめしたいです！私たちは、最初の一週間の土日でサイゴン通りのマリア教会に行き、観光会社のメコン川ツアー・クチトンネルのツアーにも参加しました。日本語ツアーに参加したので、案内はすべて日本語で言って下さいます。朝早くに観光会社前に集合ですが、早くいきすぎても日本人の社員の方が気さくに話しかけてくださるので、とても安心です。因みに会社の近くにある、ベトナム名物バインミーのお店も教えてくださいました。ツアー自体も満足の内容です。ツアーの参加者さんも日本人なので、なんとなく懐かしいような気分にもなれます(^^)

ホテルは他の参加者さんも書かれているように、とても清潔感があり毎日綺麗に掃除してくれます。ホテルを経

営している方も優しく、とても安心感があります。私は帰国直前にしか気づけなかったのですが、ホテル周辺は美味しいものがたくさんあるみたいです！うすら卵の入った肉まんがすごく美味しいのでおすすめです。近くのコンビニのカップヌードルも安くて美味しかったです。お店の中にお湯があるので食べて帰ることも出来ました。この粉は先に入れていいのか... と悩んでいたら、店員のかたが助けにきてくださり、お湯まで入れて、親切にしてくださいました。時間がちょっと余るけど何しよう...という時にホテル周辺散策は丁度いいかもしれません。

帰国する前日に、私と友達はココナッツジュースを売っていたおじさんにだまされてしまいました。まず、楽しそうな様子で日本語で話かけられました。その後、いきなりココナッツを割りだしストローをさして差し出してきました。雰囲気のにまれてしまった私は何の疑いもなく飲んでしまいました。帰ろうとすると引き留められ、4人で150000VNDを請求されました。おかしい！飲みたいなんて言ってない！と主張しても全く諦める気配はなく、結局4人で130000VNDをとられてしまいました。雰囲気のにまれてしまったのがいけませんでした。ドンコイ通り付近の道には、このようなおじさんがたくさん居たように思います。今後行かれるかたは、気を付けてください...！この程度で済んだから言えることかもしれませんが、今ではこういう経験も今後役立つんじゃないかな...なんて思っています（^^；）

【 今後参加される方へのアドバイスをお願いします。 】:

ボランティアというと、多くの人々が“困っている人の手助けをする”というイメージを持っているのではないかと思います。私もベトナムに行くまではそう思っていました。ですが、それは逆なんだということを知ったのは今回の活動で感じました。今回の場合、私がベトナムで出会った皆さんの優しさや温かさに救われていたんだと思います。人それぞれ、感じることは違うと思いますが、絶対に何かを感じて帰ってくる事が出来る2週間だと思います。



日本語教室の生徒さんと一緒に